



都道府県指導者養成研修 (がん化学療法チーム研修企画)

事前GW 課題

群馬大学医学部附属病院

医師: 櫻井 麗子

看護師: 小野澤 由美子

MSW: 林 陽子

薬剤師: 大島 宗平





群馬県の情報

群馬県内の総人口	1,940,333 人 (2020年10月1日時点)
がん死亡者数(%)	5,994 人(26.5%) (2017年)
高齢化率	30.3 % (2020年)



群馬県のがん患者の状況

	死亡率				罹患率			
	男性		女性		男性		女性	
1	肺	23.1%	肺	13.8%	前立腺	19.2%	乳房	22.9%
2	胃	15.3%	結腸	12.5%	胃	16.6%	結腸	11.9%
3	肝臓	8.0%	膵臓	11.1%	肺	14.1%	肺	9.8%
4	膵臓	7.9%	胃	10.8%	結腸	9.3%	胃	9.3%

群馬県の部位別がん罹患率の特徴

- 群馬県の部位別がん罹患率は多くの部位で日本全体の実測値と比較してわずかに低い
- 男性の**前立腺**、**胆のう・胆管**や、女性の**子宮頸部**などでは国よりも罹患率が高い
- 男性で罹患数が最も多い前立腺は、死因としてはそれほど多くない
- 2017年にがんで死亡された方の、男性約88%、女性約87%が65歳以上であり、がんによる死亡者も高齢者が多くなっている



がん診療連携拠点病院の情報

都道府県がん診療連携拠点病 1 施設
群馬大学医学部附属病院 731 床

地域がん診療連携拠点病院 8 施設

- 前橋赤十字病院 555 床
- 高崎総合医療センター 451 床
- 渋川医療センター 450 床
- 公立藤岡総合病院 399 床
- 公立富岡総合病院 332 床
- 伊勢崎市民病院 494 床
- 桐生厚生総合病院 433 床
- 群馬県立がんセンター 314 床



がん診療病院の情報

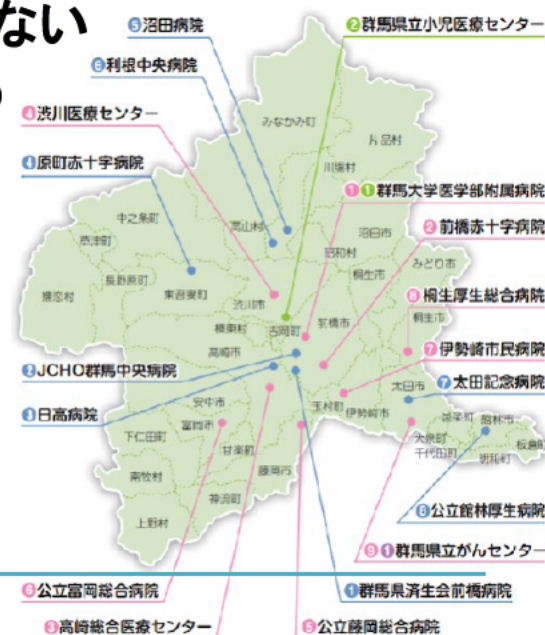
どこに住んでいても、がんの状態に応じて適切ながん医療が受けられるように県指定の「**群馬県がん診療連携推進病院**」を整備している

群馬県がん診療連携推進病院	8 施設
● 群馬県済生会前橋病院	323 床
● JCHO群馬中央病院	333 床
● 日高病院	287 床
● 原町赤十字病院	199 床
● 沼田病院	179 床
● 利根中央病院	253 床
● 太田記念病院	404 床
● 公立館林厚生病院	323 床



群馬県におけるがん医療の特性

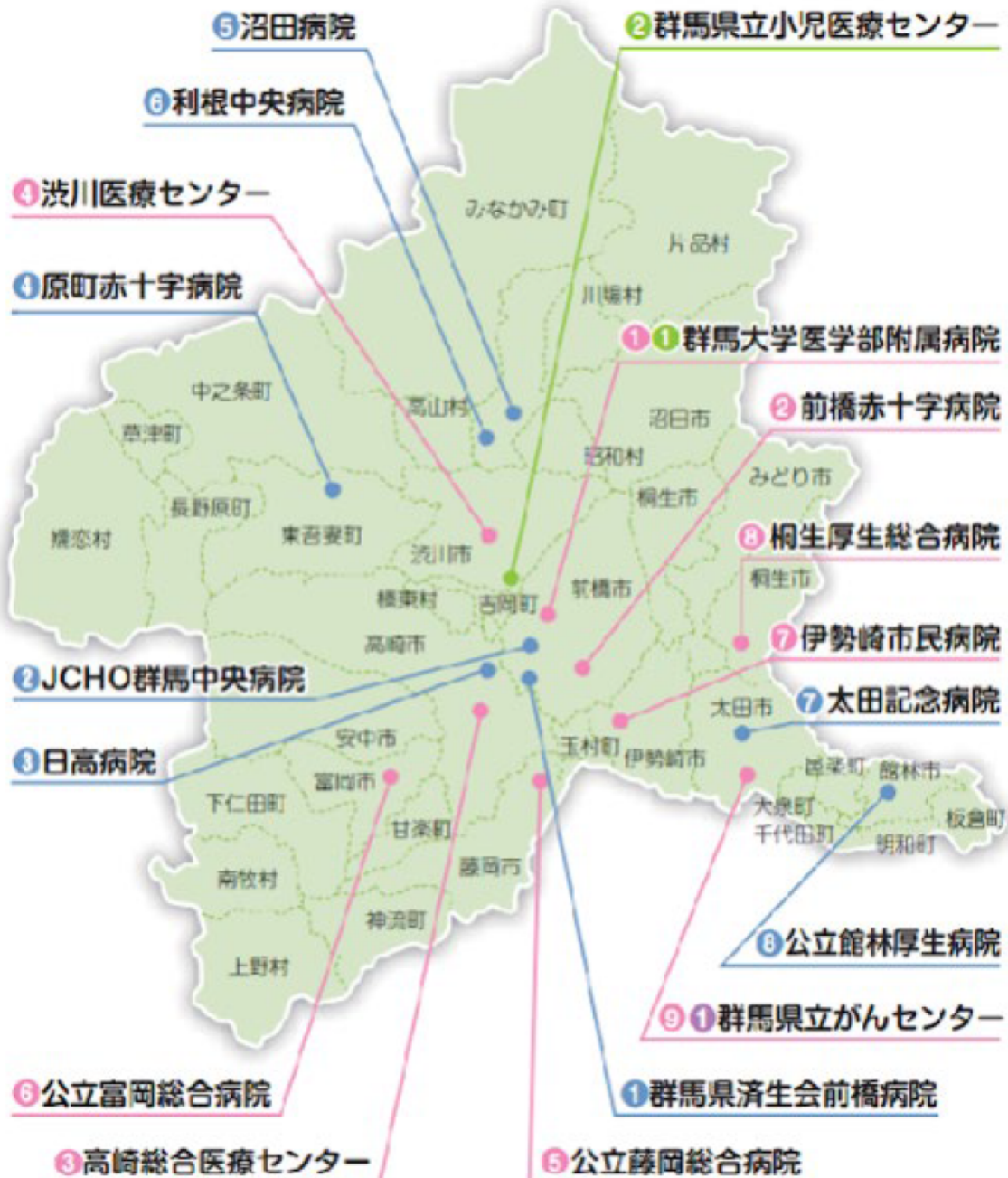
- ・ 前橋、高崎を中心とした県中央部に医療機関が集中している
→ 北部～西部地域においては広大な面積に対して、医療機関が点在する状況であり、拠点病院が少なく医療体制に偏りがある
- ・ 地域によって、社会資源の活用可能な範囲に差がある
- ・ 自動車保有率が高く、公共の交通機関が発達していない
→ 運転ができない患者や高齢者の通院が大変である
- ・ がん患者や家族に役立つ情報を得やすい冊子が作成されている
→ 「ぐんまのがん安心がんサポートブック(第10版)」
- ・ 「患者会」や「ピアサポーターの支援」が充実している



ぐんまの安心 がんサポートブック

～サポートブックはサポートします～

令和3年3月発行 第10版





群馬県におけるがん化学療法の現状と課題

【現状】 経口抗がん薬の導入・フォローアップ体制が十分でない

- 経口抗がん薬の種類は増加しており、さらに適応となるがん種も増加しているが、外来で導入され、院外処方となることがほとんどであり、医師の診察はあるものの看護師・薬剤師の関わりは少ない。(経口抗がん薬は処方・副作用対策が外来主治医のみの判断となることが多く、多職種関与が注射用抗がん薬と比べて少ないことが多く、さらに施設間での多職種関わり方にも差がある)
- 高額な経口抗がん薬も多く、効果あれば治療期間が長期間に渡り、治療費等が問題となるが、MSWとの連携が十分に行えていない。
- 経口抗がん薬は保険薬局との連携も重要になっているが、連携が十分に行えていない。



群馬県におけるがん化学療法の現状と課題

【課題】

- 経口抗がん薬の処方・副作用対策に、医師だけでなく薬剤師、看護師も関わり、さらに治療費用負担に関してMSWといった、多職種の間接的関与が必要であり、体制作りが必要である。(導入時およびフォローアップ時に多職種で連携を行い、安全で効果的な治療を患者に提供できる体制を構築する)
- 各職種の役割を理解し、治療開始～継続にあたってスムーズに連携できる医療チームをつくる
- 院外処方が多く、薬剤師間の情報共有が難しい
- 他医療機関や保険薬局と連携したフォローアップ体制を構築する
- 薬剤に合わせた副作用の知識と対処方法を学ぶ必要があるが、その機会が少ない



研修の概要

【タイトル】

適切な経口抗がん薬の患者指導とフォローアップ体制を多職種で構築できる

【目的】

経口抗がん薬の患者指導とフォローアップ体制を構築する

経口抗がん薬導入時、およびフォローアップ時のチェックリストを作製する

【対象者・人数】

医師・看護師・薬剤師・MSW（3職種以上で構成されたチームでの参加）

【目標】

一般目標(GIO)

経口抗がん薬の患者指導とフォローアップ体制を構築するにあたって、各職種の役割について理解する。

到達目標(SBO)

医師：経口抗がん薬の副作用を理解し、適切な検査を行い、状況に応じて多職種に相談できるようになる。

看護師：患者に対し、経口抗がん薬の副作用対策のセルフケア指導ができるようになる。

薬剤師：副作用対策の支持療法を理解し、医師に提案、患者に指導ができるようになる。院外薬局との連携体制を構築する。

MSW：患者に対して、社会制度等を情報提供する。院内の相談窓口を設定し、連携を図っていく。



研修会開催前の事前課題

各施設での経口抗がん薬導入及び、治療継続時の多職種でのフォローアップ体制について、現状の把握と、職種別の役割を明確にする。

- ・各施設での経口抗がん薬導入方法やフォローアップ体制、職種別における現状と課題を記載して来て頂く。

プログラム

1日目

開始	終了	時間	研修方法	内容
13 : 00	13 : 10	10	オリエンテーション	研修内容説明
13 : 10	13 : 30	20	参加施設の発表	参加施設の紹介
13 : 30	14 : 20	30 20	開催施設の発表 (医師) (看護師)	開催施設の現状（群馬大学病院で行っている経口抗がん薬フォローアップ体制について）
14 : 20	14 : 30	10	質疑応答	
14 : 30	14 : 40	10		休憩
14 : 40	15 : 20	40	職種同士でのグループワーク	
15 : 20	15 : 30	10		休憩
15 : 30	16 : 30	40	参加施設内でのグループワーク	課題検討（4職種が関り、実践できるような症例）

病院名 群馬大学医学部附属病院
都道府県名 群馬県

プログラム

1日目

開始	終了	時間	研修方法	内容
16 : 10	16 : 20	10		休憩
16 : 20	16 : 40	20		各施設毎の発表
16 : 40	16 : 50	10	総評（開催施設）	
16 : 50	17 : 00	10	アンケート	研修終了直後にアンケート記入後に解散

研修の評価

【実施評価】

研修終了直後の受講者アンケート

【結果評価】

研修3か月後のアンケート（現状の変化を確認）

【企画評価】

研修会終了後のファシリテーター及び、企画運営者による振り返り